



令和4年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

令和4年8月12日

上場会社名 株式会社東京一番フーズ 上場取引所 東
 コード番号 3067 URL
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 坂本 大地
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 掛川 洋一 (TEL) 03-5363-2132
 四半期報告書提出予定日 令和4年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和4年9月期第3四半期の連結業績(令和3年10月1日~令和4年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|------------|-------|------|------|---|------|---|------------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 4年9月期第3四半期 | 4,679 | 29.2 | △162 | — | 457 | — | 313 | — |
| 3年9月期第3四半期 | 3,620 | 25.7 | △655 | — | △186 | — | △213 | — |

(注) 包括利益 4年9月期第3四半期 330百万円(—%) 3年9月期第3四半期 △217百万円(—%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 4年9月期第3四半期 | 35.46 | 35.30 |
| 3年9月期第3四半期 | △24.19 | — |

(注) 令和3年9月期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|------------|-------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 4年9月期第3四半期 | 4,853 | 1,601 | 31.8 |
| 3年9月期 | 4,248 | 1,262 | 28.5 |

(参考) 自己資本 4年9月期第3四半期 1,545百万円 3年9月期 1,210百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|-----------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 3年9月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 4年9月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 4年9月期(予想) | — | — | — | — | — |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 現時点におきましては、令和4年9月期期末配当を未定とさせていただきます。配当の見通しが得られ次第、速やかにお知らせいたします。

3. 令和4年9月期の連結業績予想(令和3年10月1日~令和4年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|----|-----|---|------|---|------|---|-----------------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | 円 銭 |
| 通期 | — | — | — | — | — | — | — | — |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 新型コロナウイルス感染拡大により、事業活動への影響が見込まれることから、現時点では業績予想の算定が困難となっているため、令和4年9月期の業績予想は未定といたします。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

| | | | |
|---------|------------|-------|------------|
| 4年9月期3Q | 8,942,800株 | 3年9月期 | 8,927,800株 |
|---------|------------|-------|------------|

② 期末自己株式数

| | | | |
|---------|---------|-------|---------|
| 4年9月期3Q | 87,607株 | 3年9月期 | 87,607株 |
|---------|---------|-------|---------|

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

| | | | |
|---------|------------|---------|------------|
| 4年9月期3Q | 8,843,819株 | 3年9月期3Q | 8,839,193株 |
|---------|------------|---------|------------|

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 連結経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 連結財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 9 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 9 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 9 |
| (会計方針の変更) | 9 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当社グループは飲食事業を起点に、卸売事業、加工事業、養殖生産事業を垂直的に展開する6次産業化を推進することで、水産物SCM（サプライ・チェーン・マネジメント）力のある総合水産企業を目指しております。また、ポテンシャルの高い北米市場に向けた水産事業展開を図るべく米国ニューヨーク市にて卸販売を視野に入れ、鮮魚売場を併設したアンテナショップとしてのシーフードレストランを運営しております。

当第3四半期においては3月21日に東京都等における新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置が解除されましたが、その影響が残る中、新型コロナウイルス感染症の第7波の拡大も始まり、引続き厳しい事業環境となりました。

こうした状況の下、当第3四半期連結累計期間における業績につきましては、売上高46億79百万円（前年同期比29.2%増）、営業損失1億62百万円（前年同期は営業損失6億55百万円）、経常利益4億57百万円（前年同期は経常損失1億86百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益3億13百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失2億13百万円）となりました。

当第3四半期連結累計期間における、各セグメントの業績は、次のとおりであります。

①飲食事業

「泳ぎとらふぐ料理専門店 とらふぐ亭」並びに「寿し常」においては3月21日に東京都等における新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置が解除され、5月のGWには来客数も順調に回復しましたが、その後、新型コロナウイルス感染症の第7波の感染拡大が始まったことにより来客数増が停滞し、売上高は想定を下回りました。

しかしながら、ニューヨーク市に出店しております「シーフードレストランWOKUNI」においては昨年5月に店内飲食制限が解除されて以降、引続き売上高はコロナ前を超えて好調に推移しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における飲食事業は、売上高40億80百万円（前年同期比30.2%増）、セグメント損失2億50百万円（前年同期はセグメント損失6億69百万円）となりました。

②外販事業

養殖・卸部門においては、サステイナブルを重んじた養殖管理体制の強化で「平戸まぐろ極海一番」の生産は順調に推移しております。本まぐろ及びとらふぐ活魚・身欠きの国内における外販事業は新型コロナウイルス感染症の感染拡大下にもかかわらず売上高・利益ともに増加しております。今後は、ニューヨーク市のアンテナショップである「シーフードレストランWOKUNI」のマーケティング情報をもとに、第2四半期に建設した平戸養殖場に隣接するHACCP対応の水産加工場を基軸に、現地のサステイナブル志向に合った水産物を中心に北米への外販（輸出）の拡大を図って参ります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における外販事業は、売上高5億99百万円（前年同期比23.1%増）、セグメント利益80百万円（前年同期比1,569.7%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

(流動資産)

流動資産は前連結会計年度末に比べて5億95百万円増加し、28億31百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加12億84百万円、売掛金の増加54百万円、未収入金の減少6億70百万円及び仕掛品の減少76百万円となります。

(固定資産)

固定資産は前連結会計年度末に比べて16百万円増加し、20億19百万円となりました。主な要因は、工具、器具及び備品の取得による増加21百万円となります。

(繰延資産)

繰延資産は前連結会計年度末に比べて7百万円減少し、3百万円となりました。主な要因は、開業費償却による減少7百万円となります。

(流動負債)

流動負債は前連結会計年度末に比べて1億57百万円増加し、13億64百万円となりました。主な要因は、買掛金の増加36百万円及び未払法人税等の増加89百万円となります。

(固定負債)

固定負債は前連結会計年度末に比べて1億8百万円増加し、18億87百万円となりました。主な要因は、長期借入金の増加1億17百万円となります。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べて3億39百万円増加し、16億1百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益による増加3億13百万円となります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、飲食店舗においては、魅力のあるメニュー提供とサービス体制強化により店舗収益の拡大に努めつつ、自社養殖のとらふぐや本まぐろを中核に据えたSCMの推進によって水産物の付加価値増大に取り組むとともに、海外での外販事業の拡充に努めております。

また、新型コロナウイルス感染症の収束と社会的対応が未だ見通せない状況にあり、現段階での業績予想を合理的に算定することが困難になっております。このため、通期業績予想の数値につきましては引き続き未定とさせていただきます。今後、合理的な算定が可能となった段階で改めて公表させていただきます。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (令和3年9月30日) | 当第3四半期連結会計期間 (令和4年6月30日) |
|---------------|------------------------|-----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,041,735 | 2,325,927 |
| 売掛金 | 139,875 | 194,500 |
| 仕掛品 | 201,098 | 124,286 |
| 原材料 | 73,826 | 76,522 |
| 未収入金 | 684,466 | 13,928 |
| その他 | 94,684 | 96,485 |
| 流動資産合計 | 2,235,687 | 2,831,650 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 1,588,079 | 1,614,430 |
| 減価償却累計額 | △1,162,584 | △1,207,877 |
| 建物及び構築物(純額) | 425,494 | 406,553 |
| 機械装置及び運搬具 | 48,742 | 53,784 |
| 減価償却累計額 | △37,914 | △40,676 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 10,827 | 13,108 |
| 工具、器具及び備品 | 402,463 | 423,911 |
| 減価償却累計額 | △372,420 | △386,335 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 30,042 | 37,575 |
| 土地 | 883,878 | 883,878 |
| 有形固定資産合計 | 1,350,243 | 1,341,115 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 9,994 | 7,440 |
| ソフトウェア仮勘定 | - | 14,069 |
| 無形固定資産合計 | 9,994 | 21,509 |
| 投資その他の資産 | | |
| 敷金及び保証金 | 554,677 | 554,891 |
| 長期貸付金 | 1,020 | 480 |
| 破産更生債権等 | 21,478 | 21,478 |
| 繰延税金資産 | 23,033 | 28,594 |
| その他 | 123,369 | 139,193 |
| 貸倒引当金 | △81,337 | △88,170 |
| 投資その他の資産合計 | 642,241 | 656,466 |
| 固定資産合計 | 2,002,479 | 2,019,092 |
| 繰延資産 | | |
| 開業費 | 10,276 | 3,137 |
| 繰延資産合計 | 10,276 | 3,137 |
| 資産合計 | 4,248,443 | 4,853,879 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (令和3年9月30日) | 当第3四半期連結会計期間 (令和4年6月30日) |
|---------------|------------------------|-----------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 102,205 | 138,492 |
| 短期借入金 | 400,000 | 400,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 252,678 | 264,836 |
| 未払金 | 247,381 | 269,947 |
| 未払法人税等 | 30,711 | 120,176 |
| 賞与引当金 | 7,721 | 4,000 |
| その他 | 166,364 | 166,902 |
| 流動負債合計 | 1,207,061 | 1,364,355 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 1,694,596 | 1,811,806 |
| 資産除去債務 | 40,654 | 40,723 |
| その他 | 43,697 | 35,085 |
| 固定負債合計 | 1,778,948 | 1,887,615 |
| 負債合計 | 2,986,009 | 3,251,971 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 508,776 | 511,265 |
| 資本剰余金 | 410,776 | 413,265 |
| 利益剰余金 | 333,252 | 646,853 |
| 自己株式 | △30,382 | △30,382 |
| 株主資本合計 | 1,222,422 | 1,541,002 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| 為替換算調整勘定 | △12,093 | 4,522 |
| その他の包括利益累計額合計 | △12,093 | 4,522 |
| 新株予約権 | 52,104 | 56,383 |
| 純資産合計 | 1,262,433 | 1,601,908 |
| 負債純資産合計 | 4,248,443 | 4,853,879 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 令和2年10月1日 至 令和3年6月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 令和3年10月1日 至 令和4年6月30日) |
|---------------|--|--|
| 売上高 | 3,620,684 | 4,679,454 |
| 売上原価 | 1,439,396 | 1,773,946 |
| 売上総利益 | 2,181,287 | 2,905,508 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 給料及び手当 | 891,613 | 901,143 |
| 雑給 | 301,756 | 332,006 |
| 賞与引当金繰入額 | 3,931 | 26,147 |
| 広告宣伝費 | 15,789 | 10,097 |
| 販売促進費 | 50,222 | 53,081 |
| 地代家賃 | 572,158 | 616,615 |
| 減価償却費 | 45,873 | 47,137 |
| その他 | 955,578 | 1,081,983 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 2,836,924 | 3,068,213 |
| 営業損失(△) | △655,636 | △162,705 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 22 | 90 |
| 協賛金収入 | 11,060 | 5,900 |
| 為替差益 | 14,207 | 10,659 |
| 受取家賃 | 9,933 | 10,264 |
| 助成金収入 | 441,681 | 592,078 |
| 受取保険金 | 2,885 | 2,836 |
| その他 | 15,902 | 21,529 |
| 営業外収益合計 | 495,694 | 643,359 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 12,995 | 15,182 |
| 貸倒引当金繰入額 | 5,602 | - |
| 開業費償却 | 7,347 | 8,256 |
| その他 | 249 | - |
| 営業外費用合計 | 26,194 | 23,438 |
| 経常利益又は経常損失(△) | △186,137 | 457,215 |

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 令和2年10月1日 至 令和3年6月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 令和3年10月1日 至 令和4年6月30日) |
|---|--|--|
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | - | 134 |
| 新株予約権戻入益 | 687 | 261 |
| 受取補償金 | 40,000 | - |
| 特別利益合計 | 40,687 | 396 |
| 特別損失 | | |
| 店舗休業損失 | 55,736 | 6,799 |
| 固定資産除却損 | 551 | 389 |
| 減損損失 | 20,538 | - |
| 固定資産圧縮損 | - | 5,433 |
| 特別損失合計 | 76,826 | 12,622 |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△) | △222,276 | 444,990 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 5,488 | 136,950 |
| 法人税等調整額 | △13,950 | △5,560 |
| 法人税等合計 | △8,462 | 131,389 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | △213,814 | 313,600 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失(△) | △213,814 | 313,600 |

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 令和2年10月1日 至 令和3年6月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 令和3年10月1日 至 令和4年6月30日) |
|-------------------|--|--|
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | △213,814 | 313,600 |
| その他の包括利益 | | |
| 為替換算調整勘定 | △4,035 | 16,616 |
| その他の包括利益合計 | △4,035 | 16,616 |
| 四半期包括利益 | △217,849 | 330,217 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △217,849 | 330,217 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | - | - |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしています。これにより、当社グループの飲食事業において、顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、顧客への財またはサービスの提供における役割が代理人に該当する取引について、当該対価の総額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は65,394千円減少し、売上原価は65,394千円減少しておりますが、営業損失、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。